

ばんけい 教育ほつとにゅーす かわら版

こ みち

教育の小径 No.3



今月の花／スイセン
花ことば／自己愛、神秘、崇高

今月の「今日は何の日」

- 1月 1日：元日・年賀・初詣
- 1月 2日：初夢・書き初め
- 1月 5日：囲碁の日
- 1月 6日：出初め式、ケーキの日
- 1月 7日：七草粥
- 1月10日：110番の日
- 1月11日：鏡開き、塩の日
- 1月12日：成人の日、スキーの日
- 1月15日：小正月・イチゴの日
- 1月17日：防災とボランティアの日
- 1月20日：大寒
- 1月22日：カレーの日
- 1月26日：文化財防火デー



北 俊夫先生
国士舘大学教授

「言語活動」を
どう充実させるか

- 言語は、日常生活において理解力、思考力や判断力を発揮するために必要であるばかりでなく、様々な人々とコミュニケーションをとるために必要なツールです。
- 言語力を高めるために、言語活動を充実させることが各教科等の学習指導に求められています。

なぜ「言語活動」なのか

言語活動と聞くと、国語科を連想しますが、各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動、さらには外国語活動においても授業を成立させる重要な要素になっています。改訂された学習指導要領には、国語科はもとより、全ての教科等において言語活動を充実させることが明記されています。

言語は人間が独自にもっている貴重なツールです。言語によって他者とコミュニケーションを図ったり、自分の考えを表明したりできます。そのために必要となる事項を理解したり、考え判断したりする際に必要なものです。

言語には感性を豊かにし、情緒を安定させる働きがあります。語彙の豊かな人は感動体験を上手に表現します。言語力が不足していると、自分の思いを十分に表現できず、イライラすることがあります。

自己を確立させ、他者との望ましいかわり合いを維持・向上させるために言語を豊かに身につけ、言語力をは

ぐくむために言語活動を充実させることが課題になっています。

言語表現に乏しい日本の子ども

言語活動を充実させることが求められている背景には、次のような実態もあります。教師が「話し合ひましょう」とうながしても、話し合ひが成立していない場面に出くわします。発表や報告することはできても、友だちの意見を受け入れ、評価しながら、自分の考えを修正し、再び意見表明する意欲や能力が育っていないようです。

国際レベルの様々な調査や文部科学省などによる学力調査によると、わが国の子どもは、諸外国の子どもたちと比べて、記述式の問題の正答率がきわめて低いという結果が出ています。無回答が多いのもわが国の子どもの実態です。自分の考えをもち、それらを一定の文章にまとめ表現する能力が不足しているのです。そもそも書く意欲が欠けているのかもしれない。

言語のもつ意味が改めて見直され、

わが国の子どもの実態を踏まえて、これからの学校教育において言語活動の充実が求められているのです。

言語力を高めるポイント

言語活動は大きく「話す」「聞く」「書く」「読む」の四つから構成されます。実際の授業ではこれらが相互に関連し合いながら展開されます。これらのなかで特に「話す」活動と「書く」活動を重視してはどうでしょうか。

「話す」とは、発表する、説明する、報告するといった一方向に話すだけでなく、双方向に行われるようにすることです。そのためには議論し合う場を設ける必要があります。子どもたちの思考が促され、理解も深まります。

「書く」活動にもいろんな取り組みが見られます。黒板の内容を書き写すこと、教科書の文章を視写すること、これも大事な活動です。これからは、調べたり考えたりしたことを長文で書けるようにします。副詞や接続詞などのつなぎ言葉を使って、重文や複文を取り入れながら、「始め・中・終わり」「起・承・転・結」などの骨子で、自分の考えをすじ道立てて、論理的に論述できる能力を育てます。

話し合ったり論理的に書いたりする力をつけるためには、こうした活動の仕方を指導し、繰り返し体験させることが大切です。同時に、話したり書いたりする中身をしっかりと習得させる指導が求められます。

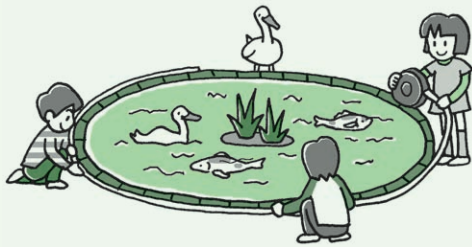
「円周率は3.14ではなく、3になる。これでは算数の力がかからない」

こんなことが現行の学習指導要領が実施されはじめたころにたびたび報道されました。いまでも記憶に新しいところです。

算数の学習指導要領には「円周率としては3.14を用いるが、目的に応じて3を用いて処理できるよう配慮する」と書かれているにもかかわらずです。この文言は、前回（平成元年版）とまったく同じでした。今回は「円周率は3.14を用いる」と示され、「3を用いて処理できる」の部分が削除されました。

日常生活では池の周りを測っておよその直径を推量したり、木の周りから柱の大きさを考えたりすることが行われます。「概数」の考え方は日常生活においてたびたび使われます。

算数の授業では、目的に応じて多様な処理の仕方や解決方法があることを指導したいものです。学習成果を実生活の場で活用する能力や態度を育てることもつながります。



子どもたちは教科ごとにノートを用意しています。わが国では、伝統的な学習用具の一つです。

子どものノートを見ると、教師が黒板に書いた事項をそのまま書き写しているもの、ほとんど書かれずに余白のままのもの、内容の構成に工夫が見られるものなどが目に止まります。

ノートは子どもの思考を整理し理解を深めるための用品であり、学習の経過や軌跡を示す記録簿でもあります。子ども一人一人に「自分のノートをつくる」という意識をもたせ、個性豊かな内容になるよう指導します。そのためには、本時の導入で学習のめあてを書かせること、自分の考えを書かせること、活用した資料を添付すること、

学習のまとめを記録させることなどし、しっかり指導する必要があります。ノートの書かせ方、活用の仕方を指導することは教師の大切な仕事です。

ノートを見ると、その子どもの学習状況をとらえることができます。同時に、その授業の実際が見えてきます。



教育キーワード 学習指導要領の読み方

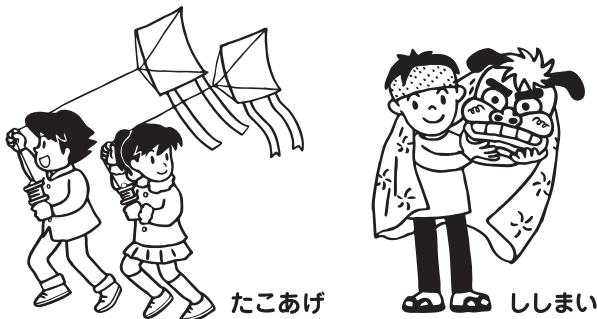
学習指導要領が改訂されると、どうしても追加・移行・削除されたところに目が向きます。ところが、大部分は改訂されない従来どおりです。その意味で「部分改訂」と言えます。学習指導要領を「不易と流行」の視点で読み取ることが大切です。

また、自分の関心のある教科等の内容を理解することに努力しますが、同時に「総則」の内容や趣旨を理解する

ことが大切です。「木を見て、森を見ず」にならないよう、当該教科と総則を関連づけて読み取るようにします。

新学習指導要領は、小学校において平成23年度から完全実施されます。来年度から移行期間に入ります。先を見ていま何をなすべきかを考え、見通しをもっていまを実践します。このことによって、万全な準備体制の下で完全実施に備えることができます。

学級通信に使える今月のイラスト



たこあげ

ししまい

Information (PR)

移行期の指導計画作成に役立つ 算数・理科 21・22年度

わかる移行措置 単元の展開例と評価規準

算数	3年	3位数に2位数をかける乗法
【2位数に2位数をかける乗法】に追加して指導		
単元の目標	算数の目標	算数の目標
<ul style="list-style-type: none"> 1. 3位数に2位数をかける乗法の意味を説明できる。 2. 3位数に2位数をかける乗法を筆算で計算し、答えを求め、検算できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 3位数に2位数をかける乗法の意味を説明できる。 2. 3位数に2位数をかける乗法を筆算で計算し、答えを求め、検算できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 1. 3位数に2位数をかける乗法の意味を説明できる。 2. 3位数に2位数をかける乗法を筆算で計算し、答えを求め、検算できる。

監修：梶田 勲一

算数・理科の追加単元・追加内容の展開例と評価規準を満載！

算数・理科の移行措置はこの1冊でOK!

- ▶ A4判・本文2色・96ページ
- ▶ CD-ROM付 (データの書き換えができます)

定価 1,400円(税込)
企画・編集 ぶんびい教育研究所
発行 株式会社文溪堂

編集後記

あけましておめでとうございます。この4月からはいよいよ新学習指導要領の完全実施に向けて、移行措置1年目を向かえます。各学校では、来年度の教育課程の編成のため、準備に取り組まれていることでしょう。今年も先生方にお役に立つ教育情報をお届けしていきたいと思ひます。(K記)



企画・編集：ぶんびい教育研究所
発行：株式会社文溪堂 発行日：2009年1月1日